



〈やさしい日本語〉と 〈やさしい英語〉

すみ ともゆき
角 知行 先生

(社会言語学専攻 天理大学名誉教授)

講師から 〈やさしい日本語〉は阪神淡路大震災以後、在日外国人に災害情報をつたえるものとして提案された日本語である。その後、在日外国人むけの地域日本語、行政文書の伝達日本語などとしても、注目をあつめるようになった。ただし、〈やさしい日本語〉の存在意義や語義の拡大については、否定的な見解もある。

一方〈やさしい英語=Plain English〉は、英米両国で法律や行政文書の簡易化のために提案された英語である。1970年代以降、〈やさしい英語〉運動によって、一定の成果をえてきた。いまではビジネスや災害情報などの分野にも、またカナダやオーストラリアなどの地域にもひろがりを見せている。

今回の報告では、文書平易化運動という観点から、〈やさしい英語〉運動のいくつかの事例を紹介・分析し、あわせて〈やさしい日本語〉の今後の可能性を考察することにした。

—
NRS ケンキューカイ
ノ オシラセ
—

トキ：6ガツ 26ニチ
(ニチヨービ)
—

14：00～16：00
—

トコロ：NRS ジムショ
(シタ ノ トーリ)
—

キドセン：500イン
(NRS カイン ワ タダ)
—

主催：公益財団法人
日本のローマ字社(NRS)
113-0033 東京都文京区
本郷3丁目32-6-402
でんわ 03-3812-0021
www.age.ne.jp/x/nrs/